

ロータリークラブとの清掃活動

富士山周辺の清掃活動を通じて感じたこと

歯学部歯学科 藤島 美穂 (開智高等学校出身)

私は、5月13日に行われた、ロータリークラブとの地域交流活動に参加しました。今回の活動は、恩賜林周辺を一時間ほど清掃した後、バーベキューで親交を深めるというものでした。私は東京都出身のため、今まで富士山周辺の環境問題についてあまり意識したことがなく、今回の活動を通して様々なことを学ぶことができました。近年、世界文化遺産に登録された富士山ですが、活動中、登録前から問題となっているゴミの不法投棄が多く見られました。例えば、車道沿いの歩道や草むらには、たばこの吸い殻、食べ終わったコンビニ食品のゴミなどがあり、ロータリークラブの方のお話によると、これらはほとんど車を運転している途中に窓から捨てられたものだそうです。

今回の清掃活動は徒歩で実施したため、富士山周辺の自然を体全体で感じることができました。しかし、同時にたくさんのゴミも見られ、それが富士山の魅力を損ねていることにとっても悲しくなりました。富士山周辺の環境問題は、富士吉田市で生活する者としてとても深刻な問題だと思います。これからまた機会があればぜひ参加し、富士山周辺の環境問題の改善に貢献するとともに、地域の方との交流を通して、富士山の魅力をもっと多くの学生に発信していきたいと思えます。



留学情報

2年次以降の国際交流

昭和大学では、国際的な視野を持った医療人を育てることを目指しています。そのため下記のように各キャンパス・学部とも海外研修・実習の企画及び実施に力を入れています。

ポートランド州立大学春期プログラム

(オレゴン州ポートランド・アメリカ)

- 【募集説明会】 11月 旗の台キャンパス
- 【日程】 3月中旬～下旬(約2週間)
- 【対象】 各学部2～5年
- 【人数】 10名程度



UCLA サマーセッションズ&Hospital Visit (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

(カリフォルニア州・アメリカ)

- 【募集説明会】 2月上旬 旗の台キャンパス
- 【日程】 6月下旬～8月上旬(6週間)
- 【対象】 医学部2年、薬学部3年
- 【人数】 選考試験による



- ※ 対象学年は実施時期に該当学年となっている方が対象となります。
- ※ 上記以外にも学部毎、学年毎に様々な国際交流プログラムが組まれています。ホームページに詳細な掲載があります。
- ※ 上記のような国際交流プログラムに参加する場合、TOEIC-IP テストのスコア等、語学力の成績を証明する書類の提出が必要になります。

公開講座

～地域の方々と学ぶ医療～

医学部医学科 香川 直輝 (敬愛高校出身)

昭和大学では年に2回程度、文化の向上と保健医療の推進を目指して、公開講座を地域の施設をお借りして行っています。その内容は多岐に亘ります。例えば今回は、薬剤の使用についてなど地域医療に関連したものに加え、薬剤の英語表記からみる西洋との文化の違いといった普段授業では学ぶことのできない人文科学系のものでありました。今回私が公開講座の手伝いに参加した理由は、地域の方々と学びを通してふれあい、たくさんの方の学びを取りたいと思ったからです。

公開講座で得ることのできるものは、そういった学びだけではありません。受付、質疑応答のマイク運び、案内など多種多様な仕事を任せられます。そして何より、自分から積極的に考え、行動する力が身につきます。説明して下さるのは仕事の概要のみ、そこからどう考えてどう行動すればいいのかまでは教えてはくれません。例えば、公開講座にいらっしゃる方の大半がご高齢の方々です。足元も悪い、けがをなさる可能性もあります。そこで、できるだけ前のほうに座れるように誘導をおこなったり、荷物をお持ちし、お席までご案内したりしました。

医療について学べるだけでなく、普段できない貴重な経験も得られる公開講座にぜひ次回も積極的に参加し、多くの人に公開講座について知ってもらいたいと思います。



国際交流/地域交流

「日本とフランスの祭典」

昭和大学富士吉田教育部講師 小林 広和

今年日本とフランスが交流を開始してから160年という記念すべき年にあたります。昭和大学の周辺地域(富士北麓地域)は2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピックにおけるフランス代表チーム(ラグビー、トライアスロン、バレーボール、バスケットボール、アーチェリー)のキャンプ地に決まるなど、フランスとの交流が盛んです。

さる2018年5月13日、富士北麓公園にて「日本とフランスの祭典」というイベントが行われ、フランスの芸術やスポーツ、食などの文化に対してさらなる理解を深め、交流を図る機会がありました。当日はあいにくの曇天で、昼からは大雨となったため、熱気球の搭乗体験などいくつかの主要イベントが取りやめになったり、プログラムが短縮されたりと少し残念な面もありました。しかし、会場には様々なブースが開かれ、フランスの食品やグッズの販売、またフランス製の車の展示などが行われ、1000人ほどのお客さんと賑わっていました。また、会場内には地元の中高校生やフランスにゆかりのあるアーティストたちの歌声や演奏が常に鳴り響き、憩いのひと時となっていました。昭和大学の学生たちも10名ほどがボランティアとして参加し、受付やお菓子の販売、ゴミ収集所の維持管理など、それぞれの持ち場で活躍していました。国際交流および地域活動など、幅広い視野をもった医療人に近く、よいきっかけになるイベントでした。



昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第32号 2018.7.23 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 久光 正
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 倉田知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403

富士吉田教育部 前田昌子 撮影

事務長就任挨拶

昭和大学富士吉田校舎 事務長 日高 穰司

平成29年8月1日付で医学部附属看護専門学校事務長から富士吉田校舎事務長に就任しました。それまでは病院、法人事務局と経験し、学事には平成27年4月より在籍していた医学部附属看護専門学校が初めての異動であり学事経験は3年強となります。

富士吉田校舎へ赴任して思うことは、毎日、雄大な富士山を見ることのできる素晴らしい環境であり、夏は涼しいが、冬は非常に寒い所であるというのが感想です。

さて、この富士吉田校舎に1年生4学部600余名の学生を受け入れて、入寮した学生は1年間という限られた期間に充実した寮生活を送ります。学部間の垣根無く関係性を構築することができ、教員との近い距離感など、昭和大学教育システムの最大の特徴となっており、多方向から非常に高く評価されています。

建学の精神である「至誠一貫」をめざし、学部を超えたチーム医療の基礎をこの富士吉田キャンパスおよび各寮生活にて体現させるのが富士吉田校舎に在籍する全職員の思いであり使命でもあると考えます。

さらに、平成30年度以降は上級学年へのシームレスなカリキュラム構築を実施するため入寮期間が1月末までとなります。そのことを踏まえ富士吉田での学生の生活環境の充実を図ることはもとより、これからの社会情勢ならびに教育制度等の変更に伴う対応、富士吉田キャンパスの管理・運営について全教職員一体となって進めて参りますので、ご指導・ご協力をお願い申し上げます。

新任教授挨拶

昭和大学富士吉田教育部 生理学 金丸みづ子

平成30年4月より、昭和大学富士吉田教育部へ生理学担当として赴任いたしました。昭和大学は、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部がそろった医系総合大学であり、患者さんを中心としたチーム医療のための教育が特徴の一つです。昭和大学の卒業生は、職種を越えたコミュニケーションがスムーズにできると聞いたことがあります。これは、4学部混成の全寮制や4学部連携の実習・問題基盤型学習の成果と思われ、教育体制や教育カリキュラムの重要性を認識させられました。現在は、このチーム医療のための教育をさらに高めるため、各学部の専門性を強化する教育カリキュラムが始動しており、初年次から基礎の専門科目の教育が始まっております。私もその一端を担うことができたいと思っております。

長年、昭和大学医学部生理学講座生体調節機能学部門(旧 第二生理学教室)で、医学部の生理学教育に携わる中、UCLAのSummer sessionsでPhysiologyを受講する機会がありました。生理学の講義に続く自身の生体情報や生体試料を使った実習を通して、入力にตอบสนองするヒトの体のしくみの巧妙さに感動しました。卒業までに身につけるべき能力としてのディプロマポリシーにつながるよう上級学年や他分野の先生方と連携しながら、医療人になる意欲に燃えた1年生がヒトの体の機能美と巧妙なしくみを学修するお手伝いをしたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごと成長をとり進めつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願ひが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

入学式・入寮式

医学部医学科 後藤 慈音 (暁星高校出身)

4月12日、キャリアバッグを引きずり真新しいスーツに身を包んだ新生が続々と集まり、入学式が執り行われました。これから始まる大学生活に対する期待と不安が、入場を待つ新生の顔をいっそう険しいものにしていました。周りにいる人のほとんどが「はじめまして」という独特の緊張感と静寂の中、入学式が始まりました。学長、理事長のお祝いと激励の挨拶のあと、昭和学校歌と昭和大宣言が行われ会場の一体感に大変驚かされました。



その後歓迎セレモニーとして、応援指導部、グリークラブ、管弦楽団、MASなどの華やかなパフォーマンスがあり、式前とは一変して新生の顔は自然と笑顔になり会話も生まれました。

入学式終了後、新生はバスに分乗し、いよいよ富士吉田キャンパスへ。出発を見送る家族に手を振る新生の背中からは、親元から離れて寮へと向かう寂しさに満ちていました。周辺の座席の人たちとの会話に慣れてきたころ、富士吉田キャンパスに到着。雄大な自然と新鮮な空気を肌で感じたのがとても印象的でした。恵まれた環境の中、医学生としての第一歩を踏み出した実感が胸にあふれました。



新生歓迎会、熱烈 歓迎!

昭和大富士吉田教育部教授 堀川 浩之

新生歓迎会が入学後の最初の土日である4月14日と15日に開催されました。この会は学生による新生歓迎委員会のもと開かれるものです。プログラムの最初を飾るのは形成外科学講座の土佐泰祥准教授による「マダガスカル口唇口蓋裂医療協力」に関する講演会です。およそ一時間の講演後の質疑応答ではたくさんの質問が1年生から出され、関心の高さがうかがえました。その後は舞台上でグリークラブによる校歌指導、新歓委員長医学部3年大塚崇志君の挨拶、前年度中央委員長の井原悠貴君からの挨拶、クラブ紹介などと続きました。中央委員会のメンバーはその後植樹を行い、今年度の前期中央委員会メンバーと昼食を一緒に取りながら、昨年の学生会活動について引継を行いました。午後スクエアガーデンでのイベント後は各クラブが中庭を中心にポスターを持った先輩たちが熱心にクラブ勧誘に力を入れていました。

また土曜日の夕食はスクエアガーデンでウェルカムパーティーが開かれ、先に会場入りしていた指導担任と指導担任グループごとに配置された上級生が拍手で1年生を迎えました。会場では指導担任ごとに食事が用意され指導担任、コンパのメンバー同士、そして上級生と立食形式で懇談しながら食事を楽しみました。

日曜日にはクラブごとに朝食会や昼食会が用意され、1年生はそれぞれ気になるクラブの食事会に参加し、クラブの活動状況や雰囲気について知ることができたと思います。ぜひクラブに入部し縦のつながりを作ってくれることを願っています。



防災訓練を終えて

医学部医学科 三尾 紀香 (昭和女子大学付属昭和高等学校)

入寮してしばらく経つと、抜き打ちで夜間点呼後に防災訓練が行われます。警報が鳴るとみんな防災バッグを片手に、全寮生が急いで外に避難します。この防災バッグとは、入寮してすぐ配布されるグレーのナップサックの中に、事前に指定された防災グッズ(懐中電灯や応急手当セットなど)を詰めたものです。寮ごとに集合場所に整列し、点呼が終わると先生から集合に何分かったのかが伝えられます。そのあと全員、防災バッグから防災グッズを取り出し、すべて不備なくそろっているか確認します。その際、先生方から細かくご注意をいただきました。

例えばマスク。事前に用意するよう言われたマスクの枚数は2枚でした。そして文字通りぴったり2枚持ってきた学生がほとんどでした。しかし本当はより多くの枚数を持っていくべきなのです。2枚という数は自分ひとりが使えるような数です。しかし緊急時、私たちは自分の身だけでなく周りの人たちの保護もするべきなのです。そのことまで考慮して防災グッズをそろえることが重要であると、この防災訓練を通して学びました。私たちは何がどのくらい必要になるのか予測して緊急時に備えるべきであると、気を引き締める機会となりました。



体育祭

保健医療学部看護学科 石渡 智帆 (神奈川県立市ケ尾高等学校出身)

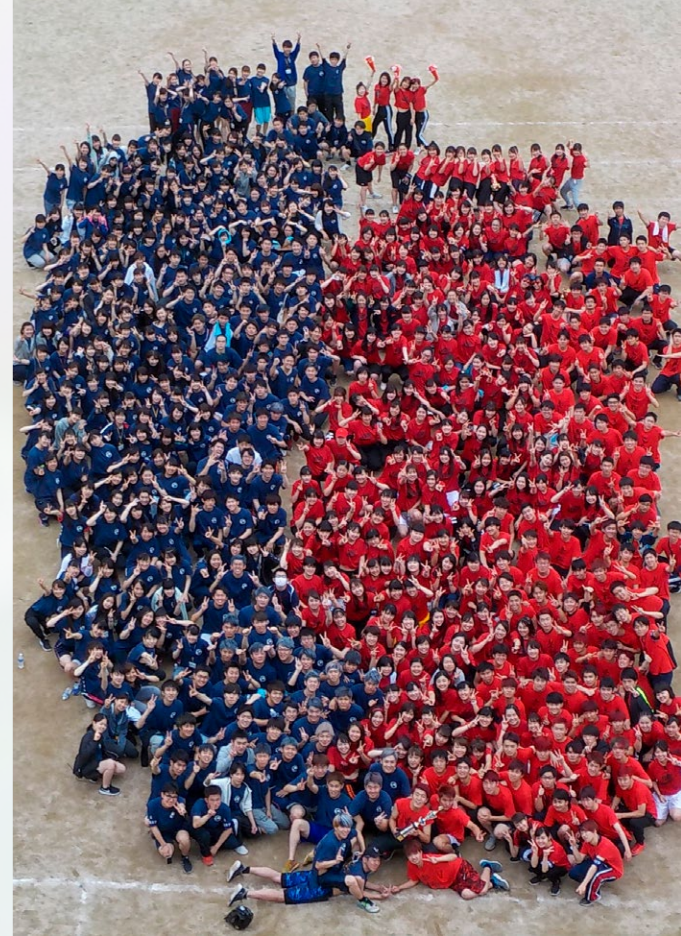
寮祭1日目の6月23日、賑々しく体育祭を開催することができました。今年は昨年とは違い、イベントのステージがグラウンドにあったことで一部が使えず、天気も心配されていたため、無事に体育祭を開催することができるかとても不安でした。

準備期間や当日は、仕事も多くわからないことだらけで大変でしたが、準備から閉会式までなんとか天気に恵まれ、54人の体育祭部門委員と寮生全員の協力のもと、スムーズに体育祭を運営することができました。開会式や競技中に体育祭を盛り上げ、協力してくれた多くの寮生にとっても感謝しています。

富士吉田キャンパスには、コンパ制度があります。コンパは、男女3~4部屋合わせて16~25人が1人の指導担任のもとで形成されるグループです。今年から新たに取り入れたこのコンパ対抗の8の字跳びや、10人ムカデ競争では体育祭1週間前から練習を開始し、コンパやフロア、寮内でさらに絆を深めることができたのではないかと思います。

皆さんが一生懸命に練習、競技をしている姿を見たり、「高校の体育祭みたいで楽しかった!」と声をかけてもらったりと、体育祭部門長を頑張ってたよかったですと心から思いました。富士吉田での体育祭が、皆さんの思い出に残るものになっていたら嬉しい限りです。

最後に、協力してくださった先生方、寮生の皆さん、本当にありがとうございました。



寮祭 百花繚乱!



歯学部歯学科 前田 萌海 (洗足学園高校出身)

6月23、24、25日に体育祭・寮祭が開催されました。GW明けの右も左も分からない状態から準備を開始し、さらに、今年度は例年とは違い、オープンキャンパスとの同時開催であったため、例年の資料が参考にならずに苦労した部門も多かったと思います。度重なる部門内、部門間の話し合いを経て迎えた寮祭は、寮生それぞれが、それぞれの場所で活躍する、今年のテーマ「百花繚乱」にふさわしいものとなったと思います。土曜日は午後から雨が降ってしまいましたが、イベントでは、軽音やダンスなどの発表や、最強コンパ決定戦が行われ、模擬店では、様々な部活やコンパが美味しい飲食物を提供していました。また、SGSC (Small Group Study Center) ではお化け屋敷、体育館ではバザーやストレスチェックなど、様々な出し物を行い、寮生だけでなく、私達学生の父兄や、富士吉田地域の方々も楽しんでいただける内容になっていたと思います。

こうして寮祭を開催するに至るまで、様々な助言をいただきサポートしてくださった先生方や事務課の方々、度々迷惑をかけたにもかかわらず、一生懸命に協力してくれた実行委員会の皆さん、また、一緒に盛り上げてくれた寮生の皆さん、本当にありがとうございました。

